

環境マネジメントシステム導入報告書

(宛 先) 京 都 市 長		平成24年7月31日
報告者の住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地） 京都市伏見区竹田鳥羽殿町6（京セラ本社ビル内）		報告者の氏名（法人にあっては、名称及び代表者名） 京セラコミュニケーションシステム株式会社 代表取締役社長 佐々木 節夫
京都市地球温暖化対策条例第2条第2項の規定により報告します。		
環 境 マ ネ ジ メ ン ト シ ス テ ム の 名 称	京セラグループ統合環境安全マネジメントシステム (ISO14001)	
適 用 範 囲	京セラグループ195サイト (2011年3月現在) (京セラコミュニケーションシステム㈱は本社、京都烏丸を含む18サイト)	
導 入 年 月 日	1996年10月29日 (京セラコミュニケーションシステム㈱は2008年から活動開始)	
認 証 番 号	EC99J2032	
基 本 方 針	当社は創業以来、「敬天愛人」の社是のもと「全従業員の物心両面の幸福を追求すると同時に、人類、社会の進歩発展に貢献すること」を経営の理念とし、すべてのものを生かそうとする「宇宙の意志」と調和する心をもって仕事にあたってきている。これはまさに今日の地球環境問題に取り組む企業に求められる考え方を先取りしており、企業活動は人間の尊厳を維持し、社会の持続的発展を可能にするものでなければならないことを指し示している。当社はこの理念を基本として、低炭素社会、循環型社会、自然共生社会の形成に向け、更に目的意志を高めて、環境保全、地球環境商品開発、省エネルギー・地球温暖化防止、省資源、廃棄物削減、化学物質の適正管理、生物多様性保全等の環境対策について総合的な取り組みを行い、より積極かつ継続的に地球環境保護に貢献する改善活動を行うものとする。	
環境に配慮した事業活動を自主的に進めていくための目標（以下「目標」という。）	<ul style="list-style-type: none"> ●廃棄物の抑制 2010年度の排出重量原単位を基準として2011年度に3%削減 ●温室効果ガスの削減 2010年度の排出量原単位を基準として2011年度に2%削減 ●省資源 ①車両燃料：2010年度の使用量原単位を基準として2011年度に3%削減 ②オフィス紙購入：2010年度の購入重量原単位を基準として2011年度に3%削減 ●環境コミュニケーションの促進 ●地域貢献活動の実施 	
目標を達成するための取組の内容	<ul style="list-style-type: none"> ●廃棄物の抑制 分別の徹底による有価物化の促進 ●温室効果ガスの削減 室温の適正管理（クールビズ・ウォームビズ）、照明の間引きや照度 の調整による節電、パソコンの省エネ対策の実施 ●省資源 ①車両燃料：エコドライブの推進、TV会議等の使用による外出の削減 ②オフィス紙購入：購入量の抑制、集約印刷、両面印刷等の推進 ●環境コミュニケーションの促進 従業員家庭における環境家計簿の取り組み ●地域貢献活動の実施 地域清掃への参加、社会貢献委員会による環境ボランティア活動 	
目標を達成するための取組の進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ●廃棄物の抑制：達成率101.7% ●温室効果ガスの削減：達成率108.9% ●省資源 ①車両燃料：達成率120.2% ②オフィス紙購入：達成率102.0% ●環境コミュニケーションの促進：環境家計参加世帯 目標677世帯 実績770世帯 ●地域貢献活動の実施：事業所周辺の清掃活動実施、環境ボランティア活動実施 	
目標を達成するための取組の成果及び当該成果に対する評価	目標に対して、空調温度管理の適正化や職場照明の消灯徹底、紙削減に各部門が真摯に取り組み、達成することができました。また、環境家計簿への参加では、目標に対して多くの世帯が参加をしていたため、環境への意識の高さを改めて認識することが出来ました。	
事業活動に係る法令の遵守の状況	当社が適用を受ける法令の遵守状況は、年に1回、法令監査を実施して確認しています。環境関連法規制についての違反や行政当局からの指摘はありませんでした。	
環境マネジメントシステムの評価及び見直しの内容	マネジメントシステムの評価及び見直しは年に1回実施しています。今回、環境方針の序文にソーラーエネルギー関連事業を追記、また環境保護推進計画の見直しを実施しました。またその他の要素として、来期のグループ構成、環境家計簿のシステム化、CSR報告の充実について見直しを行いました。	

注 認証番号の欄は、導入した環境マネジメントシステムについて第三者の認証を受けている場合のみ記入してください。